# 公立大学法人金沢美術工芸大学

# 令和７年度　業務実績評価書

金沢市公立大学法人評価委員会

目次

Ⅰ　評価方法 . . . . . 1

１　評価の構成 . . . . . 1

２　項目別評価 . . . . . 1

ア　法人による自己評価

イ　評価委員会による評価

３　全体評価 . . . . . 2

Ⅱ　評価結果 . . . . . 3

１　全体評価 . . . . . 3

２　項目別評価 . . . . . 4～7

① 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
② 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
③ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）
④ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
⑤ 業務運営の改善及び効率化に関する目標
⑥ 財務内容の改善に関する目標
⑦ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
⑧ その他業務運営に関する重要目標

# Ⅰ　評価方法

## １　評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

## ２　項目別評価

### ア　法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、以下の４段階の区分により、その進捗状況を判断理由を付して評価する。

※年度計画の大項目第６から第10に関しては業務実績のみのため記載省略

【評価基準】

| 評価区分 | 評　　価　　内　　容 |
|---|---|
| Ⅳ | 年度計画を上回って実施している |
| Ⅲ | 年度計画を十分に実施している |
| Ⅱ | 年度計画を十分には実施していない |
| Ⅰ | 年度計画を実施していない |

### イ　評価委員会による評価

(ｱ) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(ｲ) 評価委員会は、(ｱ)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については、中項目）ごとに、以下の５段階の区分により進捗状況を評価するとともに、特筆すべき点や改善が望まれる点についてコメントを付す。

| 年度計画 | 大項目（中項目） |
|---|---|
| 第１ | ①　大学の教育研究等の質の向上に関する目標<br>（教育に関する目標） |
| | ②　大学の教育研究等の質の向上に関する目標<br>（研究に関する目標） |
| | ③　大学の教育研究等の質の向上に関する目標<br>（社会との連携に関する目標） |
| | ④　大学の教育研究等の質の向上に関する目標<br>（その他の目標） |
| 第２ | ⑤　業務運営の改善及び効率化に関する目標 |
| 第３ | ⑥　財務内容の改善に関する目標 |
| 第４ | ⑦　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標 |
| 第５ | ⑧　その他業務運営に関する重要目標 |

※（　　）内は中項目

【評価基準】

| 評価区分 | 評　　価　　内　　容 |
|---|---|
| S | 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある |
| | ※　評価委員会が特に認める場合 |
| A | 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる |
| | ※　評価委員会の小項目別評価が全てⅣまたはⅢ(注) |
| B | 中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる |
| | ※　評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が９割以上(注) |
| C | 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている |
| | ※　評価委員会の小項目別評価のⅣまたはⅢの割合が９割未満(注) |
| D | 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある |
| | ※　評価委員会が特に認める場合 |

(注)評価区分は目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

３　全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

# Ⅱ　評価結果

## １　全体評価

第３期中期目標期間の４年目となった令和７年度も、年度計画に定めた全ての項目が着実に実施され、項目別評価において全項目がＡ評価（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）となっており、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

また、業務内容を充実させるために積極的に取り組む姿勢も随所に見受けられた。

特筆すべきは、新たに参加した北陸地域の大学発スタートアップ創出のプラットフォームである「Tech Startup HOKURIKU（TeSH）」において、コーディネータによる相談等の支援を受けて申請した本学教員を研究代表者とする共通工房を起点とした課題（KANABI KOGEI+）がギャップファンドプログラムに採択されたほか、アントレプレナーシップ教育の取り組みとして、若手教員によるワークショップを開催してプログラムの策定に向けた活動を推進するとともに、大学発ベンチャーの次年度の起業予定や研究成果の社会還元を見据えて、大学発ベンチャー支援規程等の整備を行ったことである。

このほか、以下に大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- 卒業・修了作品の買上制度見直しのため、大学独自の顕彰制度である「KANABIクリエイティブ賞」を大幅に見直し、各専攻等から推薦された学部・修士の最優秀作品等を表彰し学内外に首席としての実績を明確に示すとともに、買上金額を１点あたり10万円から30万円に増額することで、学生のメリットを高める制度へと刷新したこと。
- 輪島市立図書館へ寄贈される移動図書館車両の外装ラッピングデザインや市立輪島病院における美術展「ホスピタルギャラリー能登」の開催をはじめ、コミュニティ再建事業のロゴマークや統合校の校章デザイン制作など、自治体等と連携した多様な復興支援活動について、前年度を上回る規模で実施したこと。
- 学内コンプライアンス向上のため、研究不正防止研修会等の従来の研修に加え、全教職員を対象とした情報セキュリティ研修を新たに実施することで、個人情報等の漏洩対策やセキュリティ意識の向上など、大学全体での倫理意識の一層の啓発に努めたこと。

## ２　項目別評価

### ①　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

| 評価 | Ａ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の46の小項目のうち、Ⅳ評価（年度計画を上回って実施している）が３項目、Ⅲ評価（年度計画を十分に実施している）が43項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

・　卒業・修了作品の買上制度見直しのため、大学独自の顕彰制度である「KANABIクリエイティブ賞」を大幅に見直し、各専攻等から推薦された学部・修士の最優秀作品等を表彰し学内外に首席としての実績を明確に示すとともに、買上金額を１点あたり10万円から30万円に増額することで、学生のメリットを高める制度へと刷新したこと。

### ②　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

| 評価 | Ａ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の15の小項目のうち、Ⅳ評価が４項目、Ⅲ評価が11項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

・　「Tech Startup HOKURIKU（TeSH）」において、コーディネータによる支援を受けて申請した「KANABI KOGEI+」がギャップファンドプログラムに採択された実績を踏まえ、大学発ベンチャーの次年度の起業予定や研究成果の社会還元を見据えて、大学発ベンチャー支援規程の制定や知的財産・兼業規程の改正を行ったこと。

## ③　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（社会との連携に関する目標）

| 評価 | A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の12の小項目のうち、Ⅳ評価が５項目、Ⅲ評価が７項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

- 輪島市立図書館へ寄贈される移動図書館車両の外装ラッピングデザインや市立輪島病院における美術展「ホスピタルギャラリー能登」の開催をはじめ、コミュニティ再建事業のロゴマークや統合校の校章デザイン制作など、自治体等と連携した多様な復興支援活動について、前年度を上回る規模で実施したこと。
- 金沢競馬場の外観（入場門等）のデザイン・装飾、金沢スタジアム周辺に設置する誘導サイン等の多様なデザインによる地域貢献を果たすとともに、海洋プラスチック問題に向き合うきっかけをつくるデザインの取り組みなど、社会連携事業を活用した特色ある教育を推進したこと。

## ④　大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

| 評価 | A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の８の小項目の全てがⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

- 民間企業と連携した「金澤町家」でのアーティスト・イン・レジデンス事業において、フランスのヨーロッパ・外務省の文化機関である「ヴィラ九条山」から４名の作家を招聘して開催したオープンスタジオやワークショップ等を通じ、延べ120名の学生・教員が外国人作家と直接対話する機会を創出したことにより、キャンパス内の多文化共生の取り組みを推進したこと。

## ⑤　業務運営の改善及び効率化に関する目標

| 評価 | Ａ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の９の小項目のうち、Ⅳ評価が１項目、Ⅲ評価が８項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

・　教職員の資質向上に向けて、外部講師によるハラスメント防止対策研修のほか、職員向けにＳＮＳ広報に関する研修や職員自身が講師を務める研修など、多様な研修を実施した結果、全55件の研修に、延べ514名の教職員が参加し、前年度より件数、参加者数ともに増加したこと。

## ⑥　財務内容の改善に関する目標

| 評価 | Ａ（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の12の小項目のうち、Ⅳ評価が３項目、Ⅲ評価が９項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

・　外部資金、寄附金等の積極的な獲得に努めた結果、産学連携事業を15件、地域連携事業を25件受託し、「Tech Startup HOKURIKU（TeSH）」を含めて当初見込みを大きく上回る81,377千円の受託研究収入を計上するとともに、教育研究基金については、4,671千円の寄附を受け入れたこと。

## ⑦　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

| 評価 | A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の５の小項目の全てがⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

・　オープンキャンパスにおいて、教員の監修によるメインビジュアルの刷新やＳＮＳ等と連動した情報発信に努めた結果、全国45都道府県から約2,500人の来場者数を記録し、新キャンパス移転以降、毎年20%を超える来場者数の継続的な増加につなげたこと。

## ⑧　その他業務運営に関する重要目標

| 評価 | A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる） |
|---|---|

年度計画記載の23の小項目のうち、Ⅳ評価が２項目、Ⅲ評価が21項目と、全ての項目がⅣ又はⅢ評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

○　特筆すべき点

・　学内コンプライアンス向上のため、研究不正防止研修会等の従来の研修に加え、全教職員を対象とした情報セキュリティ研修を新たに実施することで、個人情報等の漏洩対策やセキュリティ意識の向上など、大学全体での倫理意識の一層の啓発に努めたこと。